～里家族ものがたり～

うちは、わたしとパパとさおちゃんの３人家族です。
ある日、ドライブをしているとラジオから、「秋田県には“あたたかい家庭”を必要としている子どもがいる」という内容が聞こえてきました。わたしとパパはとても驚きました。

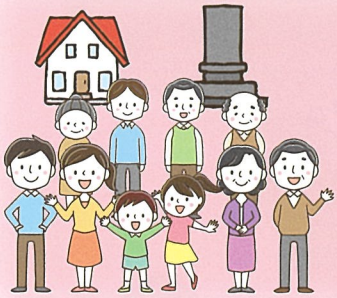
ふと、車中を見渡すと、さおちゃんの子育てはひと段落したし、後部座席は１席空いている。「家族を必要としている子どもがいるなら、この１席を分けてあげていいんじゃない」と思い、夫婦で話し合い、里親になることに決めました。

里親について調べてみると、秋田県では、３日間の研修を受講する必要があることが分かりました。
早速、申込みをし、研修を受け、里親登録をしました。

里親登録をしたあと、児童相談所から「４歳の男の子に会ってみませんか」と連絡がありました。わたしとパパは再度、互いの思いを確認し合いました。お互いの里親への思いは変わらないことが分かり、４歳の男の子に会うことに決めました。

４歳の男の子の名前はとやくん。髪が少し茶色く、色白で目がクリクリした子どもでした。
初めて会ったとやくんは、私たちにとても緊張して、施設職員の陰に隠れてしまいました。いくら声を掛けても笑ってくれませんでした。

とやくんとの交流を重ねて数か月後、ついにとやくんがうちにやってくることになりました。とやくんが来た我が家は、さらにパワーアップして、たくさんの思い出ができていきました。



またある日のお盆。親族一同で墓参りをしました。わたしは、とやくんが「知らないお墓に連れてこられて、どんなことを感じているだろう、申し訳ない」と思いました。しかし親戚一同で撮った写真を見てみると、こんなことを思いました。
「親戚の半分は、血の繋がりがない。兄弟の配偶者は他人だし、いとこの配偶者も他人。だけど、みんな家族。人と人との繋がりは、他人同士が思いあってできている。血の繋がりがないからと言って特別視することはないのかもしれない。」と…

嬉しかったら、喜んでくれる人がいる。
お腹が空いたら、満たしてくれる人がいる。
苦しかったら、助けてくれる人がいる。
痛かったら、体をさすってくれる人がいる。
悲しかったら、慰めてくれる人がいる。
それを繰り返して、人と人は信頼し合い、家族になるんだと感じています。

そして安心できる安全基地ができた子どもは強くなります。
とやくんにはいつも「とやくん大好き、愛してるよ。」と伝えています。すると、とやくんは小さく頷いてくれます。
とやくん、おうちに来てくれてありがとう。